

2018年度学校評価(自己評価と第三者評価)

東海大学附属札幌高等学校

5～1のそれぞれの評価 (5:良い 4:概ね良い 3:どちらともいえない 2:やや不十分 1:不十分)

A～C (A:概ね良い B:どちらともいえない C:やや不十分)

分野	重点目標	成果と課題	2018年	2017年	2016年	改善策	自己評価の妥当性	改善策の妥当性
学校運営	年間教育目標の実践と点検・現状における課題の解決・改善に努める	<p>●学校運営に関する評価は今年度も保護者(4.1)、生徒(3.8)であった。2016年度からの新校舎・札幌望星塾の完成に続き、2017年度のクラブハウス新設やテニスコート改修、2018年度は教室に電子黒板機能付プロジェクターが設置された。今後も「教育環境の充実」は継続されていくが、ハード面の改革だけではなく、教育内容に関するソフト面の改革を一層推進し、生徒が日々の学校生活の中で改革による変化を実感できることが重要であろう。</p> <p>●教職員の「学校改革」と「教員間の連携」に関する項目では、低迷している。ソフト面の具体的改革を押し進め、個々の教職員が学校改革へ関わっているという意識を高めながら、学校組織全体でソフト面の改革を推進していくことが求められる。教職員による「学校への愛着が持てる指導」も一昨年度までには回復していないこと、生徒による「愛着」は一昨年度より0.3ポイント低下、「安全対策」は一昨年度より0.2ポイント低下しており、具体的対応が急務である。</p>	教職員 3.8	教職員 3.7	教職員 3.8	<p>●ハード面の改革は順調に進んできた一方、授業改革や部活動以外の生徒による活動等、ソフト面の改善が課題である。今年度「教育改革委員会」では、2020年度からの新大学入試対応や、今後の学校の方向性とそれを踏まえた新カリキュラム編成に向けた課題について検討を行った。また、ICT推進委員会が中心となり、2019年度全1年生iPad導入に向け、後期より全教員にiPadが貸与される中、ICT活用やアクティブラーニングなどを含めた新しい学びの実践を展開してきた。これらは今後も継続していく。</p> <p>●安全対策や学校への愛着についても学校の根幹となる部分である。危機管理室や生徒指導部が中心となり、対応策やマニュアルをもう一度見直し、学校全体で対応していかなければならない。</p>	A	A
			保護者 4.1	保護者 4.1	保護者 4.1			
			生徒 3.8	生徒 3.8	生徒 3.9			
学習指導	基礎学力の定着と授業の充実	<p>●学習指導の項目は、本校の学校評価項目の中でも、以前から評価が厳しい部分である。特に「図書館の利用」「家庭学習の習慣」の部分は従来から評価が低かった。新校舎移転以来、メディアセンターや教科が中心となって、図書館のガイダンスや授業利用を推進してきた成果は出ており、メディアセンターの利用者数や図書貸し出し数は大幅に伸びている。また、メディア委員会など生徒による自主的な委員会活動が展開されている。</p> <p>●2017年度は停滞気味であった「課題学習・学力」の項目が、今年度生徒・保護者ともに若干上昇した。一方、教員は依然として「学力・意欲」の項目が低い。しかし、ICT活用教育への取組を通して、プリント形式の課題に加え、生徒がスマートフォンなどで取り組むことができる課題を教員が作成し、生徒が積極的に活用するなど、授業でのICT活用が推進され、授業改革が進んできたことが生徒・保護者の結果に反映していると考えられる。教育改革委員会では、2020年度大学入試改革へ向けての学びの指針を作成し、新入生にガイダンスを実施し、年間を通して学びの記録として様々な資料を生徒に蓄積させている。英語GTEC試験では、今年度スピーキングを含む4技能試験を実施した。</p>	教職員 3.5	教職員 3.5	教職員 3.6	<p>●メディアセンター(図書館)は本校における「知の拠点」として授業やその他で活用されおり、今後も授業での有効活用に加え、メディアセンターの利用を大いに推進していく。</p> <p>●家庭学習定着のための学習課題については、スマートフォンやPCを使ったe-Learningで生徒の学習進捗状況をインターネット上で教員が把握し指導する取組も定着してきている。来年度は新1年生で導入するClassiを教科・クラス指導で効果的に活用することが求められる。部活動生徒の学習習慣確立についても顧問の協力の下、継続して進めていく。授業規律などについても指導を統一させ、今後も新しい学びの形を取り入れた授業展開や新入試対応を継続していく。</p>	A	A
			保護者 3.5	保護者 3.3	保護者 3.4			
			生徒 3.3	生徒 3.3	生徒 3.3			
クラス指導	退学者を出さないクラス作り・生徒同士や教員との意思疎通のある活気あるクラス作り	<p>●「学校・クラスは楽しいか」という項目に関して、本校では安定して高い評価を維持している。一方、一部の生徒や保護者からの評価で、「教職員は生徒の悩みやいじめ等の問題に適切に応じている」という項目で、厳しい評価が出ていたアンケートもあり、このことは真摯に受け止めなければならない。</p> <p>●いじめや人間関係のトラブルはいつでもどこでも起こりうるものであり、予防的な対応をしつつ、一旦事が起これば、迅速な対応を組織的に行うことを再確認したい。教員では、クラス指導における全ての項目で1ポイントずつ低下しており、従来通りの指導では立ち行かなかつたり、生徒間の好ましい人間関係作りやクラス指導で困難に直面する場面があるのではないかと推測される。</p>	教職員 3.9	教職員 3.9	教職員 4.0	<p>●生徒一人ひとりを大切に、退学者を極力出さない学校として、全教職員が様々な角度から生徒を観察・情報共有し、生徒のケアに携わっている。保護者とは日頃から信頼関係を築き、必要に応じて早期に連携を図り、生徒のケアを行っていかなければならない。</p> <p>●全ての生徒が安心して過ごせる居場所を目指し、学級・学年での人間関係の構築を進めていく。ハイパーQU(学級集団アセスメント)の結果を有効活用し、生徒支援を予防的に行っていく方法を、健康推進室と学年が協力して実践していく。生徒の変化を敏感に察知し、いじめ等を小さな芽のうちに摘み取っていくためにアンテナを張り、生徒一人ひとりの多様性を尊重した指導を実施していく。クラス指導では、専門家による研修も行っていく。</p>	A	A
			保護者 4.0	保護者 4.0	保護者 4.1			
			生徒 4.1	生徒 4.1	生徒 4.1 E13:F13			
生活指導	社会ルールとマナー指導の徹底	<p>●本校は伝統的にしつけ教育をしっかり行う学校として定評があることが、ここ数年の評価アンケートでも示され、重点項目の一つが高い評価を得たことは、教育の成果として考えて良いと思われる。全体としては落ち着いた生活の様子が反映された結果だと考えられるが、バスや地下鉄の乗車マナーや交通ルールなど外部からの指摘が数件あった。</p> <p>●教員では、以前は高かった数値が年々下降している点に注目したい。挨拶・身だしなみ・マナー指導や欠席・遅刻を減らすための取組について、個々の教員が自信をもって指導にあたることができるように学年団や分掌など組織的に指導を行っていく必要がある。</p>	教職員 3.9	教職員 3.9	教職員 4.0	<p>●本校の生徒は愛校心や学校への誇りを持っているように見受けられる。生徒会を中心に展開している朝の挨拶運動や、全生徒での地域清掃活動、毎日のSHRや清掃活動などを通して、社会ルールやマナーを意識させている。校内には元氣な挨拶が行き交っているが、更にはTPOに応じた振る舞いや心のこもった挨拶、他者に対する思いやりや多様性の尊重など、改善できる点も多い。相手の立場を慮ったり、生徒が自分で考えて状況判断し、行動できるようになるための指導を教員も意識しなければならない。</p> <p>●社会情勢の変化に伴って、学校のルールの見直しが必要であるが、同時に決められたルールの意義を理解し遵守することも重要である。今後も、生徒の自律を促しながら、マナー教育や生活指導を継続して行っていく。</p>	A	A
			保護者 4.3	保護者 4.3	保護者 4.4			
			生徒 4.4	生徒 4.4	生徒 4.4			

進路指導	目標設定と進路決定の早期化	<p>●本校は東海大学の付属校であり、大学等の上級学校進学を目指す学校である。東海大学の付属高校のメリットを最大限に生かしながら、生徒の進路実現のために、多様な説明会や懇談・面接を展開してきた。大学入試改革への対応として、教員自ら様々な説明会に出席して情報収集し、それらを含めた最新情報を校内掲示板等やガイダンスを通して提供している。</p> <p>●生徒の「進路指導」に関する評価は変わっていないが、それと比較すると保護者が若干低い。生徒から自分の保護者へ進路情報の伝達や、学校から保護者への進路情報の伝達に、より一層の工夫が必要であると考えられる。新入試に対する確定部分はまだ少なく、不透明な部分が多いが、生徒自身が確かな進路情報を自分で入手できるような指導も模索していかなければならない。</p>	教職員 4.0	教職員 4.0	教職員 4.1	<p>●大学を中心とする上級学校への本校の進学率は80%を超えており、本校は大学進学を目指す生徒が多く集まる学校である。東海大学を中心とし、3年間で系統立てた進路指導を行っているが、進路決定の早期化や2020年度の大学入試改革に向けて、組織的に取り組んでいく。</p> <p>●東海大学付属推薦による進学の特典を積極的に説明するなど、生徒や保護者に進路決定のための十分な情報を提供していく。また、他大学進学希望の生徒など、多様な進路希望の生徒にも対応すべく、研修や情報収集を重ね、きめ細かな進路指導の継続を進めていく。</p>	A	A
			保護者 3.9	保護者 3.9	保護者 4.0			
			生徒 4.1	生徒 4.1	生徒 4.1			
特別活動		<p>●「部活動の指導に熱心に当たっている」という項目に関する評価は、昨年は教職員平均(4.7)、保護者(4.3)、生徒(4.2)であった。今年度は教職員(4.6)、保護者(4.3)、生徒(4.2)と依然として高い。</p> <p>●特別活動に関する項目では、一昨年度から保護者の評価はトータルで0.2ポイント下降したままである。中でも、「本校全体の教育活動全般に満足しているか」については、一昨年(4.2)から昨年度(4.0)と下降し、今年度も(4.0)であった。特別活動のみならず、学力向上、安全対策、生徒の人間関係作りなど、改善すべき点を明確にし、対応を推し進めていかなければならない。</p>	教職員 4.2	教職員 4.2	教職員 4.2	<p>●部活動にける生徒や教職員の情熱を今後もバックアップできる学校でありたいと考える。文武両道の実践を推進し、戦績だけでなく、部活動を通じた人間教育の面でも更に充実した指導を行っていきたい。</p> <p>●学校行事や委員会活動を通して生徒や集団を育むという視点を共有し、全ての生徒が活躍する場をいかに作り出すかを教職員一人ひとりが考えながら、教育環境の更なる充実を目指していく。</p>	A	A
			保護者 4.1	保護者 4.1	保護者 4.3			
			生徒 4.0	生徒 4.0	生徒 4.1			
第3者評価委員意見		<p>●保護者からのアンケート回収率を高めるように工夫してはどうか。</p> <p>●教職員の学習に関する評価が低くなっているため、ICT活用も連動させて、少しでも改善できるとよい。</p> <p>●生徒による授業評価アンケートに基づく「ティーチングアワード」を始めて3年目になる。先生方の反応が知りたい。受賞により意欲が高まることもあるだろうし、日頃からお互いに授業を見学し合うことも大切である。</p> <p>●学習では、教職員の評価と生徒・保護者の評価に差がある。先生方はもっと自信を持って教えてもいいのではないかな。</p> <p>●社会ルールやマナーの項目で、生徒・保護者による評価は高いが、それと比較し教職員による評価が低い。教職員からみるとまだ足りないということであろうから、保護者の側でもこの評価を気を引き締めて受け止める必要があると思う。</p> <p>●全国大会に出場する部活動も多くいるが、東海大札幌の看板を背負っているという意識を生徒に持たせるよう指導してもらいたい。</p> <p>●バスなど公共の場において制服を着ていることの重みを生徒自身が理解し、公共の場に対する意識を高めるときちんと行動できるようになるのではないだろうか。</p> <p>●今年度の学校説明会では、生徒会が中心となって進行と学校説明を行い、メリハリがあつてとても良かった。生徒の生の声や様子がよくわかり、良い説明会だった。</p> <p>●公開授業に毎年足を運んでいるが、年々良くなってきている。先生方が教材研究をしっかりと行い、良い発問が増え、生徒も集中している。研究授業を校内で実施し、年1回は他教科の授業を見ることも大切である。</p> <p>●部分的に課題はあるが、学校全体として良くなってきていると感じる。現状に安心することなく、更に良い学校にしてほしい。</p> <p>●いじめについては決して握りつぶさずに皆で丁寧に対応し、普段から小さなことでも教員が相談に乗る姿勢が大切である。</p> <p>●立派な校舎で学べる生徒がうらやましく思う。学習指導要領の改訂に伴い、大学入試改革への対応、アクティブラーニングなど高校の授業を変えていくことが大切であるため、今後も力を入れてほしい。</p>						

アンケート回収数

教職員:65人 生徒:924人/954人

保護者:670人/954人